友輪

発行所　横浜市南区宮元町４丁目82番地　郵便番号232-8515
大山祇命神示教会神総本部
編集部
電話　045·731·5373
©大山祇命神示教会　2018

時代の姿が大きく変わろうとする今（今日）
信者は家族で「教え」を学び
「真理」に生きる家庭をつくる心（努力）が必要
――「教え」に生きて
人（人間）は運命に重なる「人生」を歩んでゆける――
「生きがい」を手にし
喜び多い人生を歩む　人（人間）の心（姿）が　ここにある

教えに生きる意義を
真理に沿った人生へ

時代は、時々刻々と変化しています。そうした時代の流れを見通し、今必要なことを、神はお教えくださいます。ですから、神の教えを学び、自分自身の生き方に反映させていくことが大切です。

時代の流れに乗って生きる

世の中には、時代の流れがあります。例えば、四季も移り変わります。それは、人の力をはるかに超えた時の流れです。そうした流れに乗って生きる意識が必要です。

しかし、現代人は、その認識が薄いのです。世の中は、政治、経済などで回ると思い込んでいるのかもしれません。しかし、政治、経済は、環境の変化に合わせて動いているだけのものです。時代の流れは、それよりはるかに大きな力です。

この世は、さまざまな運命実体が重なり、ぶつかり合いながら、調和を保って流れています。流れに逆らったとしても、必ず調和する方向へと進んでいきます。

自然と調和するなら、流れに任せておけばよいかというと、そうではありません。不調和なものは、流れにのまれてしまいます。やはり、流れに乗って生きる努力が必要です。ですから、教えを学び、生活に生かすのです。学ぶ中から気付き、自身の感じ方、考え方、まさに生き方を高める努力をすることです。

神も、このようにご指導くださっています。

神示
人（人間）は皆　神の手の中
世（社会）に役立つ力（運命）を与えられて
誕生している
なれど　神の実在に気付けず
知識を絶対と思い　生きている
ここに　努力が生かせず
「道」欠き　外す社会を
自ら生み出し　悩みを深める
今（今日）のままでは
悪（あ）しき実体が世（社会）にはびこり
時代の力（運命）にのみ込まれ
悔いを残して人生を閉じる
信者に申す
――多くの運命が
重なり　補い合って
時代を育む姿に
極楽がある――
この真実「真理」を知って
神が使者を通し
世（社会）に示す「教え」を
人生の支えに生きる努力が必要
「教え」が
人（人間）の心を「正道」へと導く
そこに
多くの運命が重なり合って
万人　万物が生かされる社会が
実現してゆく
教えは「真理」
人（人間）として悔いなき人生
手にするために
「教え」を学び
心（実体）に生かす努力を
欠いてはならない

人は誰も、神の深い愛の中、社会に貢献できる力を与えられ、生まれてきています。その力が運命です。誰もが皆、この世に必要とされ、生まれてきている存在です。

そうした一人一人の良さが生きるように、持って生まれた力を埋もれさせてしまわないように、神から正しい生き方を学ぶのです。社会にあふれる知識、情報、考え方に惑わされれば、流れにのまれてしまいます。それでは、せっかくの能力が台無しです。やはり、神の教えを学ぶことが必要です。

運命が重なり生きる極楽が

神の教えで生きれば、多くの運命が重なり、補い合うことができます。教えが身に付けば、分、器からこぼれた考え方もしないでしょう。自身の力を人のために最大限に発揮し、相手からも喜ばれて、生きがいや誇りが味わえます。生きる極楽が手に入ります。

神から与えられた良さを見ず、違う方向に目を向けては大変です。神の教えどおりに生きれば、自身の運命がそれを求める人の運命と重なり、補い合って、生きがいのある人生となります。

真実、真理を知って、教えを支えに生きることです。真実とは、神からお教えいただく社会の現実です。真理は、この世の仕組みであり、その中でどう生きるべきか、その教えです。真実、真理を知り、教えを心の支えに生きるのです。

人の心は揺らぎます。ですから、常に祈願し、努力することが欠かせません。教えを支えに生きる努力を続けるのです。

教えに生きて調和を実現へ

神は、さまざまな角度から、真理をお教えくださいます。家庭の在り方も、健康を維持する在り方も、仕事に向かう姿勢も、生きがいを得る生き方も、真理があります。

そうした教えが、心を正道へと導いていきます。

正道とは、物事と望ましい関わり方が持てることです。神、仏、人の道に沿った生き方です。教えを学んで、祈願でそれを身に付けると、社会のさまざまな現実に直面したときに、「これは自分が関わってはいけないこと」「これは自ら関わるべきこと」「これはまだ時期を待つこと」「これはすぐにやるべきこと」など的確に判断できます。それが正道です。

正道を生きる心ができれば、多くの運命が重なり合い、万人、万物が生かされる、調和の取れた社会が実現すると、神は表されました。人や物、さまざまな現実との正しい関わり方ができ、運命と運命が重なり合って、万人、万物が生かされる社会が身の回りに実現していくのです。

人生を悔いのないものとするには、教えを心に生かす努力を欠いてはなりません。心に生かすとは、実体から生じる物事の捉え方、感じ方、考え方に反映させるのです。教えを学んで、自身の実体の弱点に気付き、祈願で修正を図ることです。精神世界に目を向けて、神の教えに生きる努力を重ねていくことです。

教えを生き方の軸に
指針に沿った毎日か
心を見詰める
光栄信者参拝時

迎える五月は、光栄信者参拝時です。神は、毎年一月に一年の指針をお示しくださいます。五月光栄信者参拝時は、そこまでの歩みを振り返り、指針に沿った悔いのない生き方ができているか、自分自身を見詰め直してみる時です。

今年の課題は、家族で教えを学び、家庭に生かす努力をすることです。社会が大きく変わろうとしている今、政治、経済など、さまざまなところで混迷が見えます。その中で、家族で教えに生きることをしないと、流れにのまれてしまいます。

神の教えは、困ったときに学ぶものではありません。自身の生き方に取り入れて、心の動きを支える軸とするのです。自らの価値観、物の捉え方など、生き方に反映できたとき、迷いのない人生となります。

光栄信者参拝時には、神総本部、偉光会館（ひかりのやかた）に参拝し、新たに表される神示を基に、自らの歩みを正していきましょう。

歩みを振り返って一年の成果を確実に

神魂が宿る神の館が
開所も間近にと
埼玉偉光会館（ひかりのやかた）

全国で三十三カ所目、関東地方で六番目となる埼玉偉光会館が、いよいよ完成しました。全国に偉光会館網が整備されることを優先し、全ての面で神総本部を利用してきた埼玉の信者にとって、待ちに待った偉光会館の誕生です。

偉光会館の価値は、何といっても神魂が宿ることにあります。神魂に包まれた中で、真理に触れる各種授業をいつでも学ぶことができます。学べば学ぶほど、そして祈願で自分のものにするほどに、物事の受け止め方が磨かれ、生き方が高まっていきます。

気付きが得られる相談もできます。どうすればよいか迷うときに、正しい考え方がつかめれば、悩む思いも消えていきます。神魂とつながり、家族の絆が深まる儀式も受けられます。偉光会館に出入りするほど、開運につながっていくのです。

三月三日、埼玉偉光会館では、完成した建物の清めの儀が供丸光先生により執り行われました。この日、神は埼玉偉光会館所属の信者に対して、これから目指すべき事柄を、このようにご指導くださいました。

神示
この世の姿（仕組み）をよくよく悟りて
「教え」を心の支えに
「生きる」人（信者）を目指す
この地（地域）は
姿　形に気持ちをのまれ
真実「真理」が見えずに
生きる人（人々）が多い
心に満足が薄く
常に求める気持ちが強く
「人生」が安定しない
人生は「教え」を学び
「真理」に悟りを得て
人　物との出会いを
深めることで生きてくる
生きがい　喜びを
味わい　手にして
いよいよ奉仕に生きる
「人生」が始まってゆく
「偉光会館（ひかりのやかた）」開所をかなえて
「教え」に悟りを深める
信者の人生は
大きく守られ　救われる
今（今日）　この地（地域）の信者が
気付き　なすべきことを教えよう
――家族で「偉光会館」に出入（でい）りし
「教え」を学び
我が家（家庭）に生かす努力を
家族でする――
この実践が
家族の心（気持ち）を一つに重ね
「魂」安らぐ環境（家庭環境）をつくり出す
「教え」のある家庭に
人（人間）の心（魂）は安定し
生まれる人間は
「奉仕」に生きる人（人間）を育てる
我が家の「心の道」を受け継いで
「教え」を学び
互いの「任」と「立場」を知って
関わりを深めることで
六つの花びらが
咲きそろう家（家庭）が完成する

人としての正道を知る
基本を友輝の世代に

神が表される神示、真理は、人間誰もが踏まえなくてはならないこの世の仕組みであり、そこに生きる人としての正しい生き方、正道です。正道を歩んでいけばこそ、与えられた力が生きて、人生は悔いのないものとなり、心の道に良いものを残していけるのです。

子供は、成長に合わせて、少年部、実りの集いで神の教えに触れ、そして十五歳を過ぎると青年部、友輝会（ゆうきのかい）で真理を学びます。特に友輝会の世代には、人生を力強く歩みだす上で知らなくてはならない基本的な真理を、神がさまざまな角度からご指導くださいます。

実りの集いから友輝会に歩みを進める年度替わりの春。三月二十一日、友輝会の入学式の位置付けで、友輝会全員を集めた供丸光先生による勉強会が行われました。この日、神は青年にこのように呼び掛けられました。

神示
神示教会の意味（存在価値）を教えよう
まず
人（人間）がこの世に生まれる意味を
考えてごらん
この世界
地球　宇宙の広がりの中に
生まれ　生かされている
真実（現実）を知る
人類が願い求める欲は
現実　目先のことを満たし
手にすることでなく
万物全ての命（存在）が重なり　調和し
生かし合える環境を
求めることにある
神が　使者を通し
世（社会）に示す「教え」は
万人が気付き　悟るべき真理
世界が調和し
生かし合う環境を築くため
人（人間）は　神の手の中　魂を宿され
誕生している
人類を「正道」に導く使命が
人（人間）にはある
「真理」に悟りを得て
生きる人（人間）は皆
「希望の光（みち）」を日々（にちにち）歩み
良き因を我が家の「心の道」に
残してゆく
この繰り返しに
社会は発展　繁栄し
万物の命（運命）が生かされてゆく
正しい欲を知り
「教え」に生きて
人類は　神の手の中
守られ　救われてゆく
神示教会の使命と環境の大きさを
体験する皆（信者）であれ

生きるご守護の姿が
神魂に寄り添われて

七年前の東日本大震災では、最も大きな被害を受けた宮城。未曽有の災害に直面し、多くの人々が途方に暮れる中、一人一人の心を支え続けてくださったのが神魂です。

神魂が宿る偉光会館（ひかりのやかた）があるからこそ、信者は折有るごとに神の御元に駆け付けて、苦しい思いを訴え、守られ、心を立て直してきました。また、神魂が宿った地であればなおさら、人知を超えたご守護の中で、数多くの支援を受け、復興へと歩みを進めてきています。

復興は、形の面では、年月を重ねてできていきます。しかし、重要なのは心です。どのような苦境にもなえない強い思いを維持し、折れた心も立ち直れるように、どこまでも寄り添い、支えていくことです。

三月十八日、宮城偉光会館では、供丸光先生による信者勉強会が行われました。この日に向けて、神はこのようにお言葉を表されました。

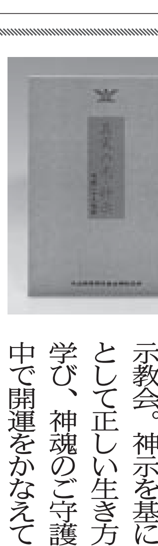
神示
人（人間）は誰も　神（神魂）の手の中
守られ　導かれ
救われてゆく真実を悟ること
神の実在　悟れた人（人々）は皆
運命の力が引き出され
救われてゆく
「教え」を学び
真実「真理」
この世の姿が見えたとき
人（人間）は皆　この社会の無常を
受け止められる
人間が考え　導く
社会の限界が見えてきて
神魂の手の中　心（運命）包まれ
「生きる」守護の姿（真実）が
悟れると申す
この地（地域）は
まこと・人の道を手にできず
孤独な晩年（終日）を迎える人（人々）が多い
この地の実体に
心（人生）流されぬように
今（真実）「信者の道」を目指す時
「教え」を学び　祈願通して
愛ある心の人（存在）を目指すこと
神魂が「人生」に寄り添い
心導く真実を悟れし人（人々）は
必ず　愛心（あいしん）が引き出され
多くの出会いに触れ
開運かなう人生を歩んでゆける

神魂の愛に包まれて、真っすぐ、力強く生き抜いていける有り難さを、宮城の人々は身をもって味わったことでしょう。そのご守護の大きさは、計り知れません。

大震災から七年、神は今、この地の実体を踏まえ、あらためて見詰めるべきことをご指導くださいました。実体に負けないように、感情に流された動きをしないように、運命に重なる心の動きを求め、教えに沿う努力が大切です。そこに、どのような環境の変化があっても、悔いのない人生を歩みきることができます。

真実の神は、恐ろしいほど偉大なお力でお守りくださっています。どのような苦難も好転させてくださいます。だからこそ、神のお言葉に忠実に生きていきましょう。

神から真理を学ぶ
『真実の光（みち）・神示』
平成29年版発行



神示あればこその神示教会。神示を基に人として正しい生き方を学び、神魂のご守護の中で開運をかなえていくのです。

神示集『真実の光（みち）・神示』平成二十九年版ができました。供丸斎先生、供丸姫先生、そして供丸光先生と、神は使者を通して絶えることなく、神示を表してくださっています。そこから真理を学び取り、人生に生かしていきましょう。

神が使者を通し
「真理」を
世（社会）に教示して
早七十年余（よ）
今（今日）　人類が
「真理」を求める
時代を迎え
いよいよ
神示教会の意味（存在）が
世（世界）に映る

生きがいに返る意欲
社会に奉仕する心を

この世に生を受けた誰もが、社会に貢献できる良い運命を神から授けられています。一人一人がその力を奉仕の心で生かしたなら、本人の生きがいに返るばかりか、社会は必ず発展します。繁栄していきます。

ところが、仕事の真理を知らず、働く意欲が持てない、今の職場の方針が良くない、適職に就けないなどと嘆く人が数多くいます。そうした現実を嘆いても、それでは解決には至りません。

仕事に向かう上では、まず自分自身の足元、土台となる、心が安らぐ場を固めることです。和のある環境に身を置けば、健康も守られ、仕事に向ける意欲も湧きます。

自らの心を神の教えに重ねてみれば、どのような立場に置かれても、自分の存在を生かして人の役に立つように、奉仕の心で生きることです。そこに、必ず生きがいが返ります。

神は、仕事の真理をこのようにお示しくださいました。

神示
働くとは何か――
この問いへの正しい答えが
見えないとき
人（人間）は働く意欲が持てないと嘆く
人間は　神の手の中　誕生に合わせ
肉体に魂を宿される
その運命に導かれて
世（社会）に役立つ力（運命）を手にする
人（人間）は皆　社会に奉仕し
真の生きがいを
手にできるもの（存在）
神が使者を通し
世（社会）に示す「教え」を学び
社会を「真理」で見る
努力をする
自然と我が「人生」に
努力する目標
目指すべき適職が見えてくる
「開運」かなう人（人間）が育つ
家庭の姿（真理）を知っていようか
「教え」のある家庭に
人（人間）の心（魂）は安定し
「運命」が導く人生が歩める
人（人間）は　誕生の時から
社会に奉仕する力（運命）を手にしている
後（あと）は「教え」に生きる努力をする
自然と「実体」は高められ
「運命」に重なる「人生」が
見えてくる
この時　人（人間）は真実
働くことの意味（真理）が悟れる
社会に奉仕する心（信念）が持てたとき
正しい道　働く意欲が持てる

心の成長を図る研修
教えに沿う生き方を

ことしも、神奈川県湯河原町にある偉光郷で、年代別の研修会が始まりました。日頃、勉強会で学ぶ人たちが一泊二日を共にし、神の教えを実践しながら過ごすひととき。同年代との触れ合いから、さまざまな気付きが得られる貴重な機会です。年々全国から参加する人たちの輪が広がり、一人一人の喜びや成長につながっています。

「ためになることがたくさんあるから…」「もっと自分を磨きたくて…」と期待を胸に臨む人や、「地域の仲間に誘われたので…」と言う人など、参加者はさまざま。到着すると、「初めまして」「どちらからですか」と自然と声を掛け合い、穏やかな空気が広がっていきます。

真理を軸に発言が

研修室では、少人数に分かれて、教えの生かし方を考える話し合いが。「初めて会った人たちなのに、気軽に話せる」「みんなの発言が聞けるのがいい」と好評です。「家庭でこんな問題が起きたら…」という話を自分に当てはめ、「家族で意見が合わないのはつらい」「一人で悩むのは不安かも…」などと考えていけます。性格や環境が異なる同士でも、真理が軸にあると、「本音で語らないと、気持ちは重ならない」「家族で支え合えば乗り越えられる」と、皆の心が同じ方向にまとまっていきます。

仕事や対人関係の問題に対しても、真理が軸にあれば、どのように生きればよいかが見えてきます。「自分の立場でやるべきことを誠実に」「相手を理解するゆとりが必要」と、次々に発言が。「確かにそうだ」と共感した話を聞きながら、「そのように考えればいいのか」と理解が深まったりしていきます。問題を客観的に捉え、真理に沿った生き方を探ることが、実生活での応用につながるはずです。

教えの生かし方を皆で考えて

奉仕の心を育んで

清掃や草取りなどの作業も、自分を見詰めるきっかけに。「気持ちよく座ってほしいから…」と丁寧に椅子を拭いた主婦は、「家族を思いながら家事をしていなかった」と反省。久しぶりに掃除をした男性は、「帰ったら、家内に日頃の礼を言おう」と感謝の心が持てました。

「ここは私が…」「一緒にやりましょう」活気のある雰囲気は、互いの良さを引き出す力に。「誰かの役に立てるのはうれしい」「できることを率先してやろう」と、奉仕心が磨かれます。

気付きを実践へと

心を高めるには、多くの人と関わることが欠かせません。「真理で物事を考えるうち、知識に走りがちな心に気付いた」「一緒にいて心地よい人になるには、品性や愛の心を磨かないと…」など、自分に必要なことが見え、全てが成長への糧になっていきます。

参加者との会話から、自分の考えを優先していたことに気付いた女性は、「子供の進路を考えるにも、親子でよく話し合うことが大切」と心の切り替えができました。若手社員の育成に悩んでいた男性は、「掃除一つもみんなの心が重なると違う」と実感し、まずは信頼関係を築くことから始めようと意欲的に。また、「こうあるべきという固定観念を捨てなければ…」と感じたのは、嫁への不満を抱いていた女性。「相手を認め、受け入れられる心に…」と、自分の課題に取り組む気持ちになりました。

研修ならではの深い気付きが

真理に沿う心へと近づくほどに、人柄も磨かれて、充実した日々が送れます。研修会は九月まで実施。対象の方は、ぜひご参加ください。

教会史に触れる展示
真実の姿を見詰めて

歴史の重みが（安明殿１階）

長い年月をかけ、直使、代神によって開運を実現する手だてが整った神示教会。そこには、一人一人の仕合せ、幸福を願われて神が計らわれた歴史がありました。折有るごとに、その真実に触れるほど、感謝とともに、仕合せを目指す思いを新たにできることでしょう。

深い神の愛を胸に

神魂誕生十五周年に合わせ、神総本部真実の光会館安明殿一階で開催した記念展示会は、一月から常設の展示室となりました。訪れた人たちは、「機会あるごとに目にできるのはうれしい」「新しい内容も増えて、教会の歩みがよく分かる」と口々に。教会設立時の総本部から、真実の光会館が建つまでの写真を目にして、「供丸斎先生のご苦労がしのばれる」「直使のお力でどれほどの人が救われたことか」と感謝の思いを熱くする人も少なくありません。

年表をたどりながら、「仕事が大変な時に信者に」「この頃、息子の命を救っていただいて…」「両親と偉光会館に通った思い出が…」と当時を振り返る人。以前と比べて、「物事を前向きに考えられる」「互いを思いやれる家族に…」と、成長の陰にある神魂の力を感じる人もいます。

書物の変遷に触れるコーナーには、歴代の発行物の展示が。「今は、こんなにたくさんの書籍があるんですね」「どれも私たちの仕合せのために表されたと思うと、感慨深い」学びへの意欲が一段と湧いていきます。友人に誘われて久しぶりに訪れた人は、展示から深い神の愛を感じて、「信者としてやり直したい」という心になりました。

神と出会えた喜びが
開運へ近づく力に

神魂と歩む自信が

直使ご生誕の地に立つ望会館には、直使の救世の歩みや最後に受けられた神示に加え、神の世界へと供丸姫先生を導かれた供丸斎先生、さらには神主、教主、神奉仕、また直使ご母堂の展示があります。

直使のご母堂が応対に使われていた部屋に、三世代で足を運んだ家族。高齢の女性が懐かしい写真を見て、『仕合せになるんだよ』と、いつも温かく声を掛けてくださる愛深いお方だった」と、子や孫に語り聞かせる姿もありました。

感謝を新たに（宿泊処）

宿泊処は、教会発祥の地として、その門戸を開かれた供丸斎先生の足跡と、当時の表札などを目にすることができます。「祖母がここで信者になったから、家族が神に出会えて、たくさん守られてきた」と胸を熱くする青年や、「何ともいえない清らかさと温かさを感じて…」と、心身ともに癒やされる人もいます。

魂の救いを実現する偉光郷には、先祖、故人の遺骨を安置する神玉里があり、直使、代神の神玉（遺骨）も納められています。ここには、お二方の人生をたどる内容や、偉光郷の歩みを記した掲示を設置。先祖への挨拶に訪れた人が立ち寄り、「人生を終えた後も守られると知って安心した」「生前、両親がこの場所を気に入っていた訳が分かった気がする」などと安堵感に包まれる姿も目立ちます。

全てが神の手の中で導かれている神示教会。その真実に事有るごとに触れるところに、神魂と歩む自信が湧き、開運へと歩みを進める力になるでしょう。

埼玉偉光会館が完成
神魂を宿して開所へ

埼玉県川越市で建設が進んでいた偉光会館が完成。三月三日には、教主正使者供丸光先生が出向かれ、清魂の儀、および建物の清めの儀が行われました。

当日は、約六百人の係が代表して参列。真新しい建物を前に、「ついに私たちの偉光会館が…」と、誰もがこぼれるような笑顔でした。「これからこの地が発展すると思うと、胸がいっぱいに…」「埼玉の一人残らずの仕合せを願われる神の愛がひしひしと伝わってきた」厳かに執り行われた儀式は、偉光が根付く尊さを肌で感じるひとときに。神所が完成した感謝と感動で全館が温かい雰囲気に包まれ、各人が偉光会館を大切に活用する思いを強くしました。

儀式に続く勉強会では、埼玉に向けて表された神示を基に、供丸光先生が今必要な生き方をご指導くださいました。「家族で偉光会館に出入りする大切さがよく分かった」「神示をしっかり受け止めて、館の尊さを家族や知人に伝えていきたい」などと、一人一人が課題をつかんだ有意義な時間でした。中には、「神示から、多くの人が守られ、救われていくことを感じて、希望が膨らんだ」と言う人も。「これからこの館でしっかり学び、仕合せな人生を歩んでいこう」と決意も新たに、前向きな一歩を踏み出しました。

待ちに待った開所式は、四月八日。その模様は、神総本部と各地の偉光会館に中継され、全国の信者が祝います。

清めとともに真実救われる館へと

心のかけ橋

ゆとりを持って接する大切さ

岩手県　村上静香

我が家は、夫と、六歳と四歳の息子の四人家族です。以前は、家事と育児に追われ、子供を感情のまま怒っては、反省する繰り返しでした。

教えを学び、穏やかになれるように祈願する中で、心が変わってきました。子供たちのけんかやわがままも、「まだ幼いから…」「まずはゆっくり話を聞こう」と、受け止められるようになったのです。

育児に協力してくれる夫にも、感謝が深まりました。日頃から何でも会話する私たちですが、心配性の私を、夫は「気にするな」と励ましてくれます。私も、夫の気持ちになって話を聞きます。

息子たちは仲が良く、私が洗ったお皿を長男が拭き、次男が食器棚にしまう姿はほほ笑ましいです。ある時、指をけがした長男が、「ともちゃんじゃなくてよかった」と次男を思う言葉に感動して、思わず抱き締めました。やんちゃ盛りの子供や夫と過ごす毎日に、仕合せを感じています。

心が温まった雪道の徒歩通勤

栃木県　山本美千代

大雪が降った日の翌朝のことです。普段の通勤は車で十分ほどですが、この日は徒歩で行くことに。雪が深く、そろりそろりと歩き始めました。

途中、玄関で雪かきをしている方に、「おはようございます。大変ですね」と挨拶。ガソリンスタンドの方からは、「歩いた方が安心ですね」と声を掛けられました。狭い通りでは、擦れ違う人と滑りにくそうな所を譲り合い、坂道では、近くにいた方が歩きやすい場所を教えてくれました。

車通勤では、こうした触れ合いはできないと思うと、徒歩通勤が楽しくなりました。外は寒かったですが、職場に着く頃には体も、心もぽかぽかに…。母から、「無事に着きましたか」とメールが届いたのもうれしく、仕合せな朝のひとときでした。

自分の変化で出会いが楽しく

長野県　原田芽依

社会人になった頃の私は、先輩の強い言葉や態度に引いてしまい、関わりを避けていました。そんな時、友輝会で、誰にも良さがあることや、素直、正直な心の大切さを学びました。そこで、分からないことは素直に聞いて教えてもらおうと、先入観を持たずに接することを心掛けたのです。

そのうちに、真面目で、周りへの気遣いができる先輩の良さが見え、徐々に苦手意識がなくなりました。その方が退職する時、お世話になった感謝を伝えると、喜んでくれてうれしかったです。この経験のおかげで、今は誰とでも自分から関われて、出会いが楽しくなりました。

友輝会だけでなく、課外教室や光友会に参加すると、全国の仲間と知り合えます。教えを実践している話に共感したり、自分の課題に気付いたり、勇気をもらったりできる魅力的な環境です。

これからもたくさんの方と出会い、笑顔を交わしながら、人の役に立つ自分になりたいです。

年齢を重ねてもできることを

静岡県　伊藤登四平

八十四歳の今、人と触れ合う毎日が楽しくて仕方ありません。

息子家族との同居で引っ越した時は、知り合いがいませんでした。でも、散歩中に自分から挨拶したり、学校帰りの子供に声を掛けたりして、いろいろな人と話ができるようになったのです。ある時、公園が雑草だらけだったので草取りをしたところ、とても喜ばれてうれしく思いました。

近所の方の誘いで、シニアクラブにも参加しています。皆さんと過ごす時間が楽しく、少しでも場を盛り上げたくて、冗談を言ったりもします。グランドゴルフや寸劇など、いろいろな体験ができてありがたいです。

多くの人と関わる中では、時に自己中心的な方もいます。でも、「人は人」「自分は迷惑を掛けないように…」と思うだけで腹が立たないのは、教えのおかげです。

家では、家族とたわいない会話をしたり、みんなでひ孫の誕生会をしたり。これ以上の仕合せはないと感じます。今後もできることを実践して、楽しく生きていきます。

神総本部で進む改修
宿泊施設が三カ所に

このたび、神総本部では、和光会館の向かいにある六階建ての施設を改修し、宿泊施設として新たに活用することになりました。長年研修生寮としてきた建物で、大々的な工事でリニューアル。愛光会館に付属するお泊まり処となります。五月から、予約サイトで受け付けを開始します。

改装してお泊まり処に

戸部にある宿泊処とは異なり、簡素な素泊まり形式で、ベッドメイキングなども自分で行う形となります。その分、安価に宿泊でき、開門から閉門までいつでも参拝し、神総本部にゆっくり滞在できます。

一方、神示教会発祥の地には、直使、代神の深い愛で誕生した宿泊処があります。神総本部参拝の際はもちろん、仕事や旅行の折にも、多くの人たちが利用しています。宿泊者からは、「安心してぐっすり眠れた」「私たちの仕合せを願われるお二方の御心を感じて、前向きに歩む思いが膨らんだ」などと、喜びの声が寄せられています。神が、「この土地には人の心を強くする力がある」と言われたとおり、身も、心も癒やされる宿となっています。

宿泊処でゆったりと

もう一つ、偉光郷には秀和の道会館があります。納骨や墓参に訪れた方が、神玉里で故人の魂に心行くまで思いを届けるとともに、遺族が水入らずで過ごせる空間です。故人の命日に訪れる家族連れもたくさんいます。それぞれが新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら思い出話に花を咲かせ、温泉に漬かってくつろいで、お互いの心の絆を深めています。その他、宿泊研修への参加者が利用しています。

五月から、三カ所の施設を用途に合わせて活用できます。それぞれの館で、安らぎの時間を味わえることでしょう。

真理を分かりやすく
『実りのみち 2018』『友輝 22』
大人にも好評な青少年図書

青少年の勉強会は、四月から新年度が開始。三月には、その教科書である『実りのみち』と『友輝』が発行されました。

『実りのみち』は、小中学生が学ぶ実りの集いで使用します。「なぜ、人は生まれてきたのか」「愛されキャラになるには…」神の教えが楽しく身に付く一冊です。

学びが心の成長を

保護者向けのコーナーも充実。供丸光先生のお話や質疑応答のページでは、子供との接し方や温かい家庭を築くヒントが得られます。人と調和して生きるこつもつかめて、大人にも参考になることばかりです。

『友輝』は、十五歳から三十歳までの若人が対象の友輝会の教科書。人生の土台をつくるために必要な、基本の真理を学べます。「安定感のある心でいるためには…」「人柄を高める生き方とは…」など、多様な角度で読み進められます。

「どんな神示が掲載されているのかな」といち早く購入した大学生。繰り返し読むほど、心が前向きになると感じるそうです。「職場の人間関係で悩んだり、落ち込んだりしたとき、どうすればよいかが分かる」と、生き方の参考書にしている若者もいます。

教えが分かりやすく説かれた青少年の図書は、誰が読んでもはっとする内容が盛りだくさん。「真理が図解されていて、心にすっと入ってくる」「自分の良さを生かす生き方が分かった」「子供向けと思っていたけれど、目からうろこが落ちる」と、幅広い世代の人が手にしています。プレゼントして喜ばれている人も。「子供との触れ方の参考に…」と、毎年愛読している小学校教師もいます。

子供も、大人も書籍をひもとけば多くの発見があり、心の成長に役立てていけるでしょう。

ご案内

十五歳の出発点を神会員登録で新たに

神は、十五歳を成人の節目と言われます。神から授けられた世に役立つ運命を意識し、自らの力で人生を踏み出していく出発点です。

この時、神宝祭の儀式で成人する思いを神魂にお届けするとともに、供会員から神会員への登録手続きを行います。

神会員登録の際には、大切な節目の意義をつかみ、これから自分の良さを磨いていくことを確認します。十五歳を過ぎて登録が済んでいない方は、ぜひ神総本部、または偉光会館にお申し出ください。

持って生まれた力を自覚し、新たな気持ちで希望にあふれた未来に向かい、力強く前進していきましょう。

編集後記

神示から社会の動きを読み取り、真理に生きる思いを強くすることが大切です。人は、知識や経験から物事を考えがちです。しかし、神示から感じ取り、生き方に返すのです。周りとどう関わるかです。開運には、有限の人生をどう生きるかが問われているのです。